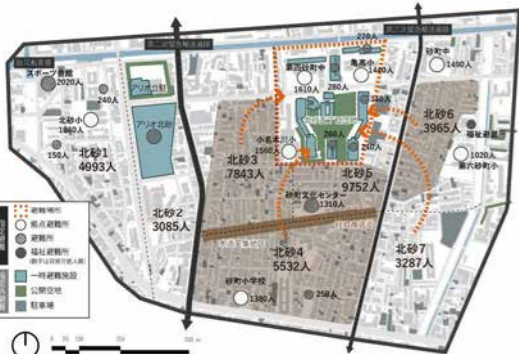


# 自然性の舟を編む

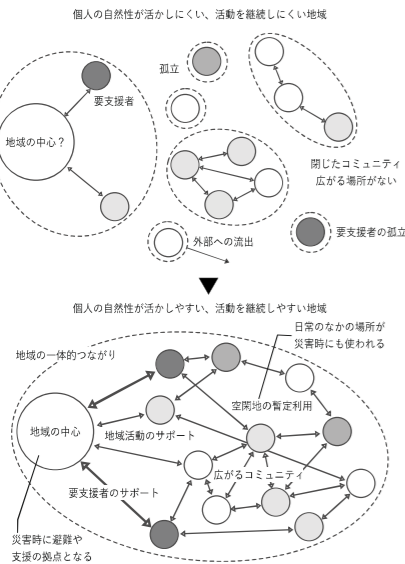
指定外班 植田 小関 齋藤 左右田 鷺野

首都直下地震、水害、感染症と複雑化するリスクと激動する都市の需要に対応すべく、日常と非日常を接続させ、住民・地域自らで被災を最小化し、新たに復興するための土壌を整備するプロセスを提案する。江東区北砂では木密火災や水害リスクが特に高く、首都直下地震の際には多くの指定外避難が発生すると予想される。この応急居住期に現れる「指定外避難」を復旧復興期へ接続し日常という目的地を目指すには被災者自身が自らの力で進む = 「自然性」を發揮する」ことが欠かせない。

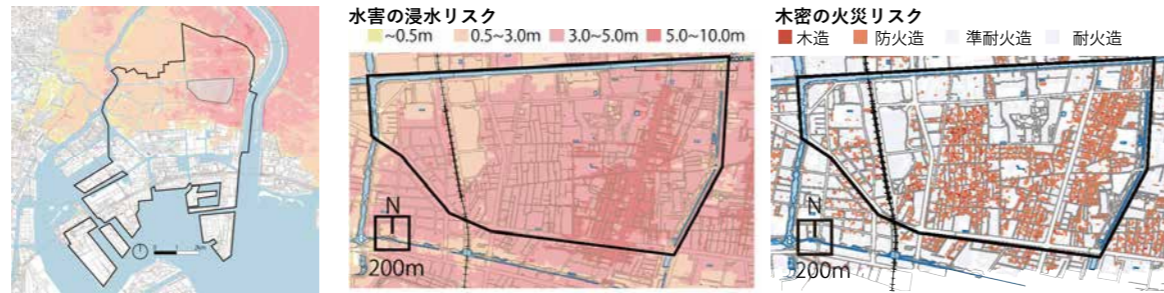


私たちの考えでは地域構造を図のように変化させるために次の四つの条件が重要である。

1. 活用可能な空地がある
2. 援助可能なコミュニティがある
3. 災害時の行動が日常と接続している
4. 分散した小さな場所が地域の中心と接続している



## 敷地の特性



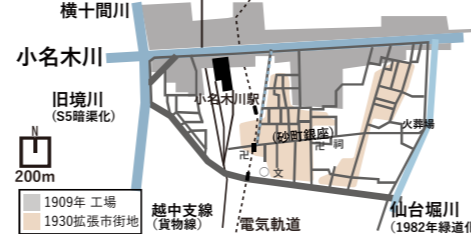
## 「一様な疎 / 混在の密」の形成

大規模敷地の継承と内の密集

1909年 川沿いの蔵屋敷が工場に転換

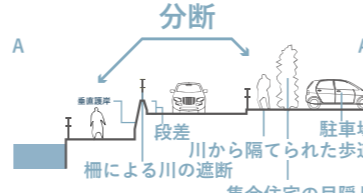
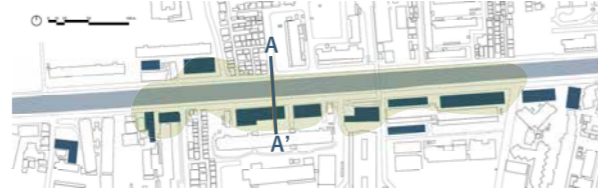


1930年 工場は団地へ、戦災後の木密形成



## 地区の課題

駐車場と柵による川との分断



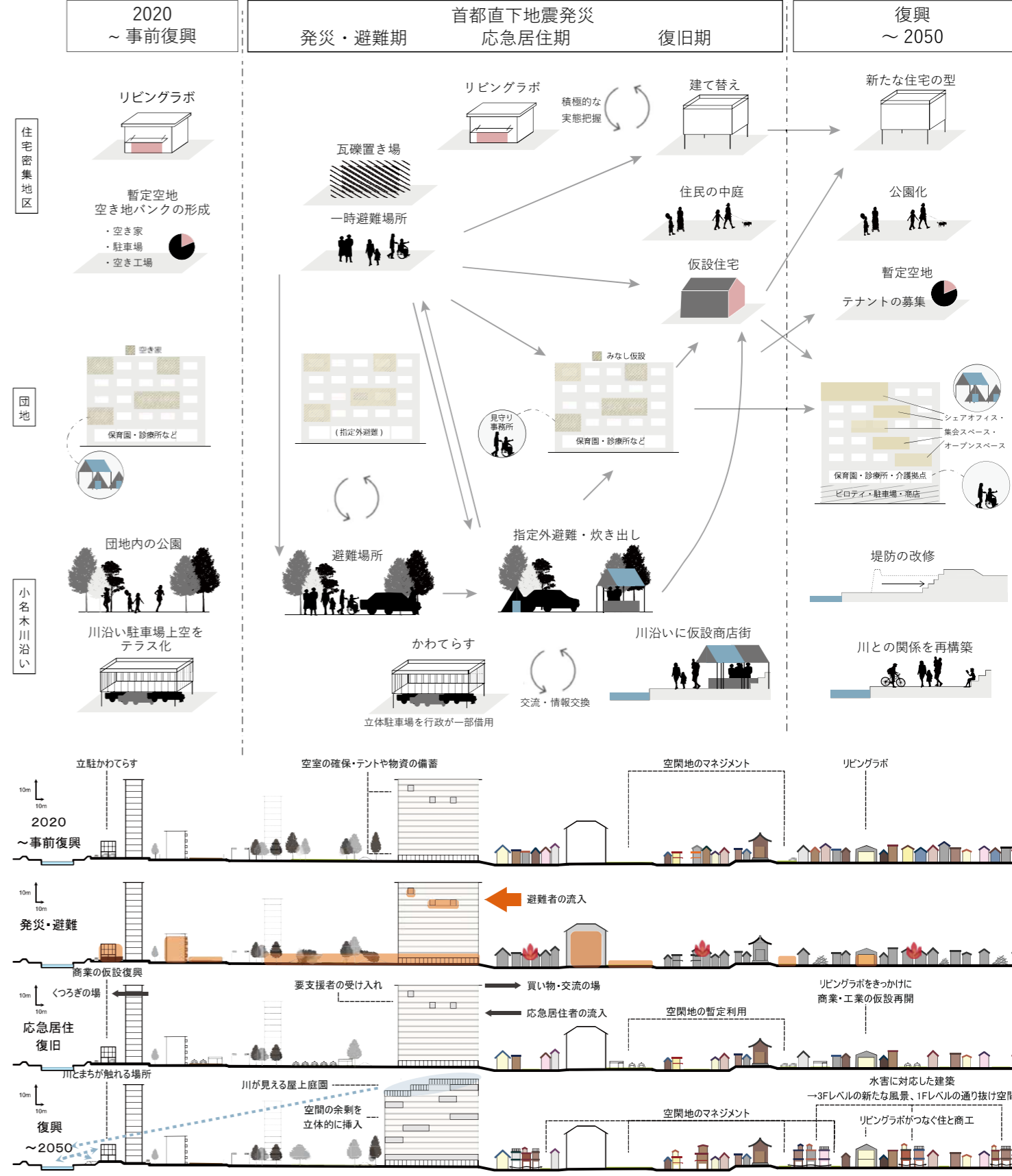
団地の建て替え需要と指定外避難の受容

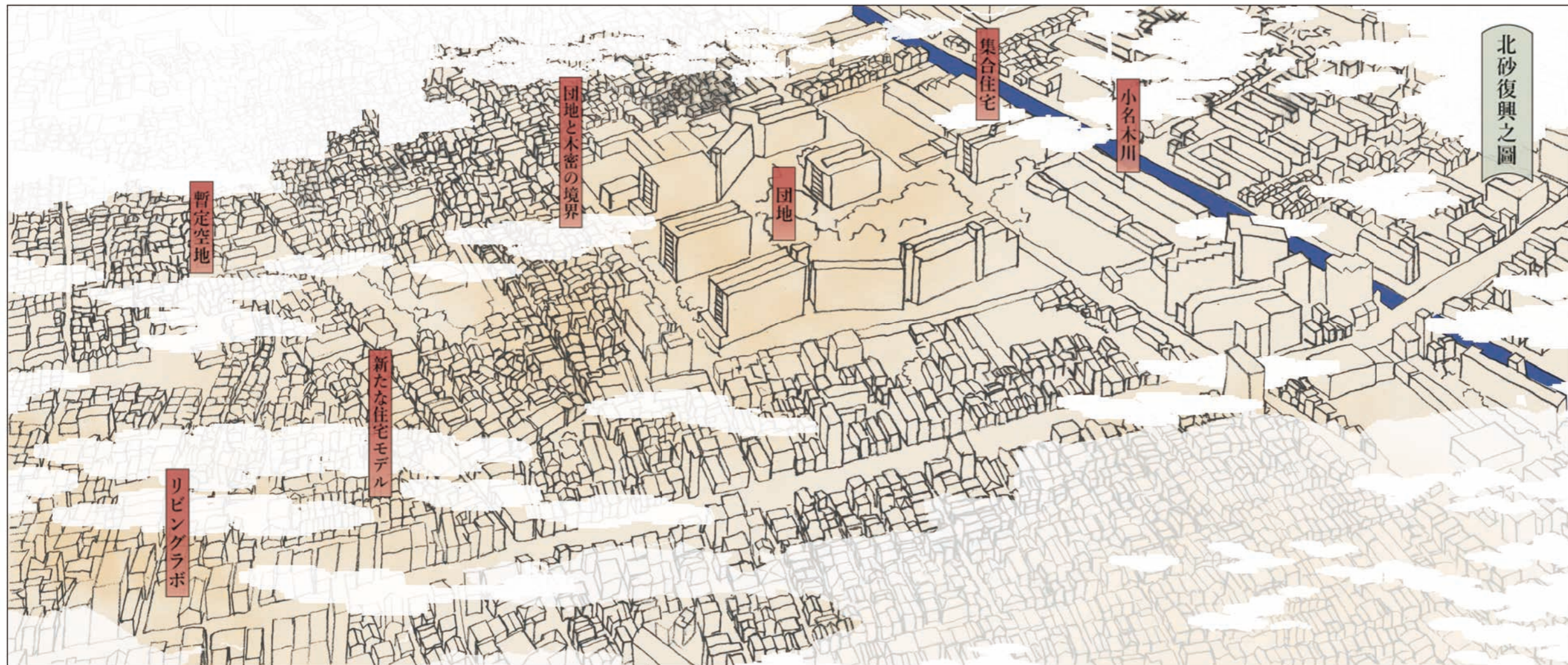


木密内の低未利用地の活用と住工混在の継承

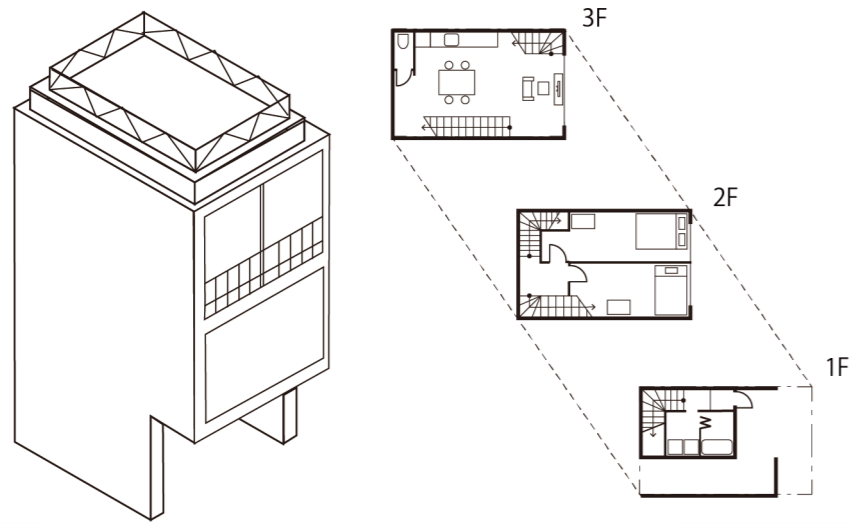


## 提案の骨格

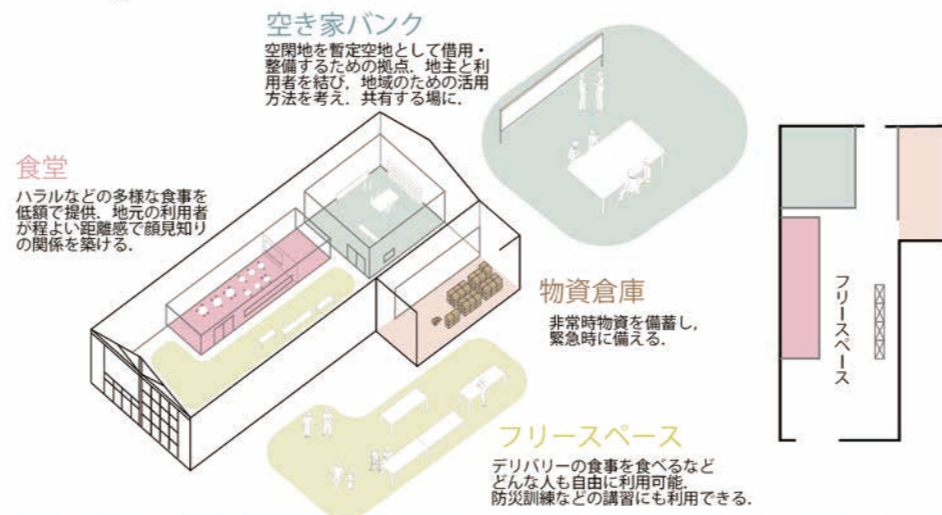




2050 に向けた新しい住宅モデル



Living Lab - 多様な生活者を結び、地域を考える場 -



団地の建て替えモデル - 駐車場を利用し漸進的に建て替える -

